

第 3.4-16(2)表 苫小牧港の情報

| 項目 | 情報 |
|--------|---|
| 概要 | <p>勇払平野を掘り込んで築造された我が国最初の掘込式港湾である。港湾内は第1～4区の4港区に分かれている。第1～3区及び第4区西部を西港、第4区の東部を東港と称している。</p> <p>全道港湾貨物量の1/2、また、内航貨物の取扱量は全国1であり、近年外貨コンテナの増加が著しい。苫小牧港は、北海道における大規模工業地帯として、また、流通拠点としても整備が進められている。</p> <p>港内の波浪は、年間を通して南向きの頻度が高い。</p> |
| 気象 | この地方の気候は道内では比較的温和で、降雪期間も短い。 |
| 潮汐 | 大潮期の潮差の平均は0.9m、小潮期の潮差の平均は0.3mである。 |
| 潮流 | 流速は、港内外ともに弱く、最大0.3kn程度であるが、港内と港外では流況を異にする。 |
| 障害物 | 苫小牧港西防波堤灯台の南西方約1海里に水中障害物（42° 36.8' N 141° 36.1' E, コンクリート塊）がある。また、シーバースの周辺にも多数の水中障害物がある。 |
| 旧土砂捨場 | 苫小牧港西防波堤灯台の南西方約3.6海里付近海域にある。 |
| 架空線 | 中央北ふ頭4号岸壁の東側から水路を横断する架空線（高さ55m）がある。 |
| 針路法 | <p>室蘭方面から来る場合には、白老港から苫小牧灯台付近までの距離約1～2海里的漁網に注意を要する。出入港に際して、東防波堤の西方の水路は幅約300m、水深約14mで、2灯浮標で示されているが、水路を外れると急に浅くなる所があるので注意を要する。なお、防波堤入り口付近で南～南南西方からの風波が大きいときには、特に注意を要する。</p> <p>東港に入港する場合、掘下げ水路（水深14～17.5m）の中央を示す導標（2標一線059°）および、北海道石油共同備蓄棧橋への水路を示す導標（2標一線082.7°）ならびに中央ふ頭への水路を示す導標（2標一線012°）が設置されているので、入港に際しては、これらを利用するとよい。</p> |
| 入港上の注意 | <p>苫小牧港は、旅客および貨物フェリーのほか、内航定期船等が多数就航しており、西港区においては、総トン数500トン以上の船舶に対し管制信号を行っている。早朝および夕方には出入港船が集中する傾向にあり、対象船舶以外であっても錨泊、入港、出航前に信号所に通報することを指導している。</p> <p>特に春先から夏にかけては濃霧の発生が多く、全ての船舶は、苫小牧海上交通安全協議会の合意事項により通報を行うこととなっている。</p> |
| 通信 | <p>船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介し無線電話による港務通信ができる。</p> <p>呼出名称：ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO 周波数：16/12ch 運用時間：常時 連絡先：苫小牧海上保安署</p> |
| 水先 | 苫小牧水先区水先人会に要請する。 |

資料：『北海道沿岸水路誌』（海上保安庁，2008年）
『北海道沿岸水路誌 追補第5』（海上保安庁，2013年）

第 3.4-16(3)表 苫小牧港の情報

| 項目 | 情報 | | |
|-----|---|-----------------------------|---|
| 港 則 | 港則法施行規則第11条の規定による針路の表示 | | |
| | 目的地に関する記号 | 信号 | 信文 |
| | C | 2代・C | 第1区の開発フェリーふ頭から中央北ふ頭1号東岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | N | 2代・N | 第1区の木材ドルフィン2号から丸一鋼管岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | E | 2代・E | 第1区の勇払ふ頭から中央南ふ頭西岸壁に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | S | 2代・S | 第1区のホクレン用棧橋から苫小牧ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| | 2E | 2代・2・E | 第2区の入船ふ頭から北ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。 |
| 2W | 2代・2・W | 第2区の西ふ頭又は南ふ頭の係留施設に向かって航行する。 | |
| 信 号 | 苫小牧信号所 (42° 37.8' N 141° 37.4' E) および勇払信号所 (42° 38.9' N 141° 40.3' E) で、次表のとおり航行管制信号を行っている。 | | |
| | 水路名 | 信号の方法 | 信号の意味 |
| | 苫小牧水路 (中央北ふ頭1号東岸壁東端から中央南ふ頭西岸壁西端まで引いた線以西の第1区および第2区) | Iの文字の点滅 | 入港船は、入港可 500t以上の出航船は、運転を停止して待機 500t未満の出航船は、出港可 |
| | | 0の文字の点滅 | 出港船は、出港可 500t以上の入港船は、水路外において出航船の進路を避けて待機 500t未満の入港船は、入港可 |
| | | Fの文字の点滅 | 500t以上の入港船は、水路外において出港船の進路を避けて待機 500t以上の出航船は、運転を停止して待機 500t未満の入出航船は、入出港可 |
| | | Xの文字の点灯 | 港長の指示船以外は、入出航禁止 |
| | 勇払水路 (苫小牧水路を除いた第1区) | Iの文字の点滅 | 入港船は、入港可 500t以上の出航船は、運転を停止して待機 500t未満の出航船は、出港可 |
| | | 0の文字の点滅 | 出港船は、出港可 500t以上の入港船は、運行を停止して待機 500t未満の入港船は、入港可 |
| | | Fの文字の点滅 | 500t以上の入港船は、運行を停止して待機 500t未満の入出航船は、入出港可 |
| | | Xの文字の点灯 | 港長の指示船以外は、入出航禁止 |

資料：『北海道沿岸水路誌』（海上保安庁，2008年）
『北海道沿岸水路誌 追補第5』（海上保安庁，2013年）

第 3.4-16(4)表 苫小牧港の情報

| 項目 | 情報 | |
|-----------------------|--|-----------------------------|
| 航泊制限 | 港内において、石油類の引火による事故防止のため、一般船舶は港内に停泊中の引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む。）から30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。 | |
| 錨泊制限 | 第1区及び第2区においては、係留施設に係留する船舶以外の船舶の錨泊が制限されている。 | |
| 錨泊上の注意 および 避難勧告 | 錨泊は、第3区の検疫錨地付近と第4区シーバース付近が主な錨地となっている。また、南寄りの風にあつては、東港中防波堤の北側が唯一波浪を防げる錨地となっているが、いずれも走錨しやすく、南寄りの強風時、走錨による乗揚げ事故が発生している。このため、苫小牧海上保安署では、南寄りの風が風速15m/s以上に達したとき（達すると予想される場合も含む。）には、「走錨注意情報」（ほっかいどうほあんから16chで周知）を発表するとともに、港長から苫小牧港及び周辺海域に錨泊する船舶に対して抜錨のうえ避難するよう勧告を行っている。 | |
| 錨地 | 底質は主に砂、軽石等で錨かきは悪く、南寄りの風波が大きいときには走錨のおそれがあり、錨泊には適さない。 検疫錨地は第3区の港界付近（42° 36.4' N 141° 36.0' E）にあり、危険物積載船は第4区に錨泊しなければならない。 | |
| 海事関係 官公署 | 苫小牧海上保安署（港長） | 0144-33-0118 |
| | 室蘭運輸支局苫小牧海事事務所 | 0144-32-5901 |
| | 苫小牧税関支署 | 0144-34-1953 |
| | 小樽検疫所 苫小牧出張所 | （千歳空港検疫所支所 0144-32-2848へ連絡） |
| | 植物防疫所室蘭・苫小牧出張所 | 0144-33-2913 |
| | 入国管理局苫小牧分室 | 0144-32-9012 |
| | 苫小牧港管理組合 | 0144-34-5551 |
| 医療施設 | 苫小牧市立総合病院 TEL 0144-33-3131 | |
| 海上交通 | 八戸港，秋田船川港（秋田区），仙台塩釜港（仙台区），新潟港，敦賀港，大洗港及び名古屋港との間にカーフェリー便がある。 | |

資料：『北海道沿岸水路誌』（海上保安庁，2008年）
『北海道沿岸水路誌 追補第5』（海上保安庁，2013年）



資料：『苫小牧港パンフレット』（苫小牧港管理組合，2012年）

第 3.4-6 図 苫小牧港の概要

第 3.4-17 表 苫小牧港における入港船舶の推移

(単位：隻，トン)

| 年次 | 外航商船 | | 内航商船 | | 漁船・避難船 及びその他船舶 | | 計 | |
|-------|-------|------------|--------|------------|-------------------|---------|--------|------------|
| | 隻数 | 総トン数 | 隻数 | 総トン数 | 隻数 | 総トン数 | 隻数 | 総トン数 |
| 2008年 | 989 | 16,030,968 | 10,063 | 61,074,115 | 3,292 | 119,008 | 14,344 | 77,224,091 |
| 2009年 | 996 | 14,668,766 | 9,308 | 58,565,683 | 3,232 | 62,487 | 13,536 | 73,296,936 |
| 2010年 | 1,031 | 14,510,457 | 9,395 | 59,304,230 | 3,213 | 60,509 | 13,639 | 73,875,196 |
| 2011年 | 1,055 | 16,065,107 | 9,548 | 59,965,693 | 3,242 | 255,068 | 13,845 | 76,285,868 |
| 2012年 | 977 | 15,667,640 | 9,700 | 63,384,938 | 3,094 | 98,615 | 13,771 | 79,151,193 |

資料：『苫小牧港統計年報（平成 24 年港湾統計）』（苫小牧港管理組合，2013 年）

第 3.4-18 表 苫小牧港における船舶乗降人員の推移

(単位：人)

| 年次 | 外国航路 | | 内国航路 | | 合計 | | 計 |
|-------|------|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 乗込人員 | 上陸人員 | 乗込人員 | 上陸人員 | 乗込人員 | 上陸人員 | |
| 2008年 | - | - | 440,366 | 427,674 | 440,366 | 427,674 | 868,040 |
| 2009年 | - | - | 435,238 | 418,338 | 435,238 | 418,338 | 853,576 |
| 2010年 | 93 | 93 | 423,079 | 408,786 | 423,172 | 408,879 | 832,051 |
| 2011年 | - | - | 409,922 | 394,108 | 409,922 | 394,108 | 804,030 |
| 2012年 | - | - | 456,070 | 440,121 | 456,070 | 440,121 | 896,191 |

資料：『苫小牧港統計年報（平成 24 年港湾統計）』（苫小牧港管理組合，2013 年）

第 3.4-19 表 苫小牧港における海上出入貨物の推移

(単位：トン)

| 年次 | 外国貿易 | | 内国貿易 | | 総計 |
|-------|-----------|------------|------------|------------|-------------|
| | 輸出 | 輸入 | 移出 | 移入 | |
| 2009年 | 1,036,215 | 18,009,639 | 41,263,931 | 41,983,260 | 102,293,045 |
| 2010年 | 1,013,944 | 14,764,415 | 38,539,559 | 39,734,797 | 94,052,715 |
| 2011年 | 1,035,227 | 14,724,642 | 38,905,651 | 40,009,567 | 94,675,087 |
| 2012年 | 1,027,886 | 16,733,889 | 39,430,470 | 39,265,994 | 96,458,239 |
| 2013年 | 871,763 | 16,090,243 | 40,846,357 | 41,599,126 | 99,407,489 |

資料：『苫小牧港統計年報（平成 24 年港湾統計）』（苫小牧港管理組合，2013 年）

⑥ 海底ケーブルの敷設、海底資源の探査または掘削その他の海底の利用状況

7) 海底ケーブル等

苫小牧市および厚真町地先海域の海底ケーブル等の敷設状況について、『航海用海図 W1034 室蘭港至苫小牧港』（海上保安庁，2010 年）および『航海用海図 W1033A 苫小牧港西部』（海上保安庁，2013 年）での記載情報を確認し、整理した。

海底ケーブル等の敷設状況は、第 3.4-7 図に示すとおりである。

苫小牧市および厚真町地先海域では、汀線から沖合方向に伸びる海底線および海底輸送管が 4 箇所敷設されている。圧入井および CO₂ プルームには、近接して海底ケーブル（図中では海底線）および海底油送管が認められる。



資料：『航海用海図 W1034 室蘭港至苫小牧港』（海上保安庁，2010 年）

『航海用海図 W1033A 苫小牧港西部』（海上保安庁，2013 年）

第 3.4-7 図 海底ケーブル等の敷設状況と圧入井および CO₂ プルームとの位置関係

1) 海底資源

海底資源として、海底鉱物資源である海底熱水鉱床、コバルトリッチクラスト、マンガン団塊のほか、メタンハイドレート、石油・天然ガスが該当する。これら海底資源の分布状況を整理し、苫小牧市および厚真町地先海域での海底資源の有無を確認した。

世界の海底鉱物資源の分布状況は第 3.4-8 図、日本周辺海域におけるメタンハイドレートの存在の指標となる海底擬似反射面 (Bottom Simulating Reflector ; BSR) の分布状況は第 3.4-9 図、石油・天然ガス賦存ポテンシャルの高いエリアは第 3.4-10 図に示すとおりである。

苫小牧市および厚真町地先海域は、海底鉱物資源やメタンハイドレートの分布は確認されていないものの、石油・天然ガス賦存ポテンシャルの高いエリアに該当しており、当該海域には、民間会社により試掘権が設定されている。ただし、当該区域において、現時点で公開されている開発計画はない。

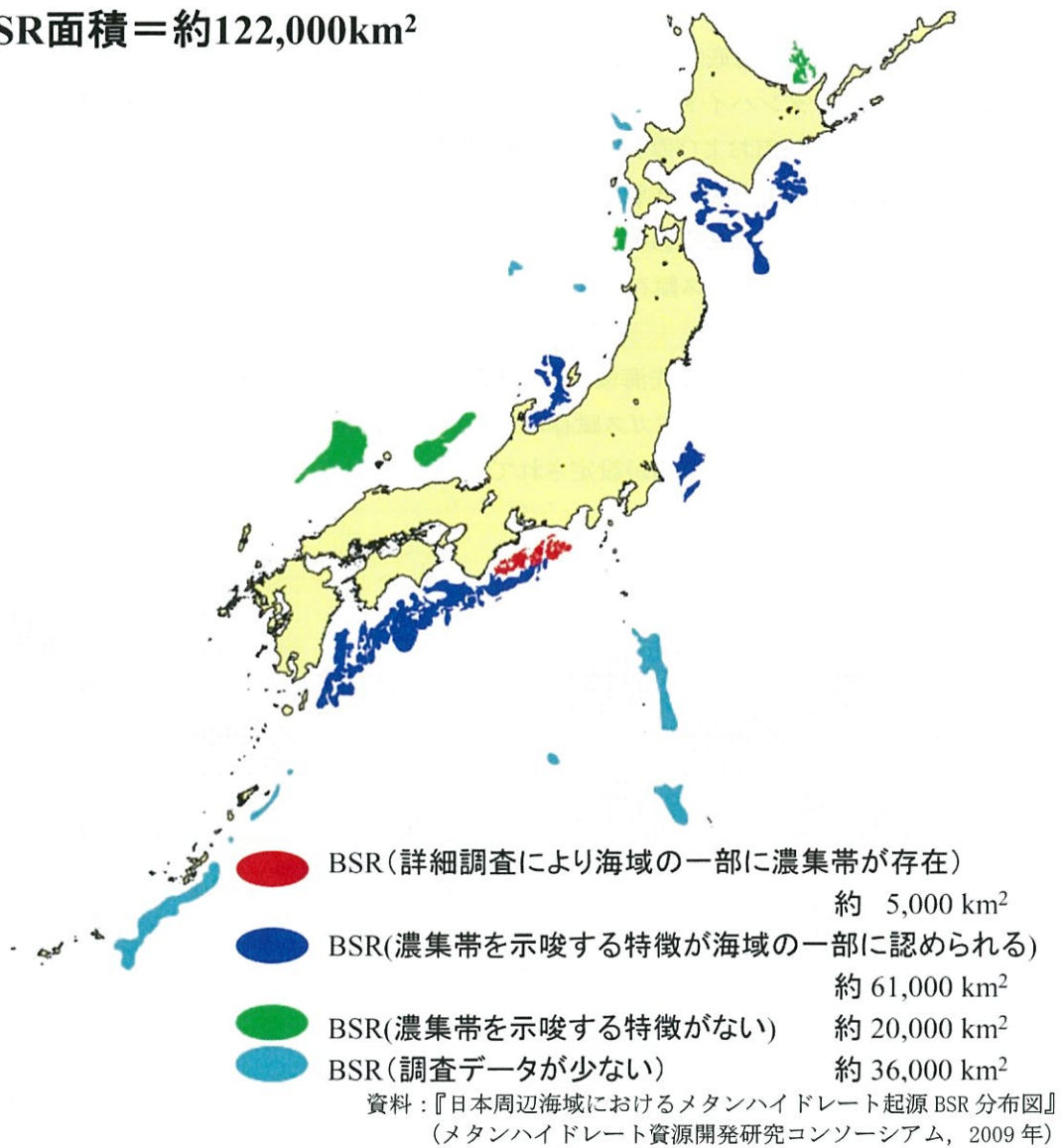


資料：独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構ウェブサイト^[1]

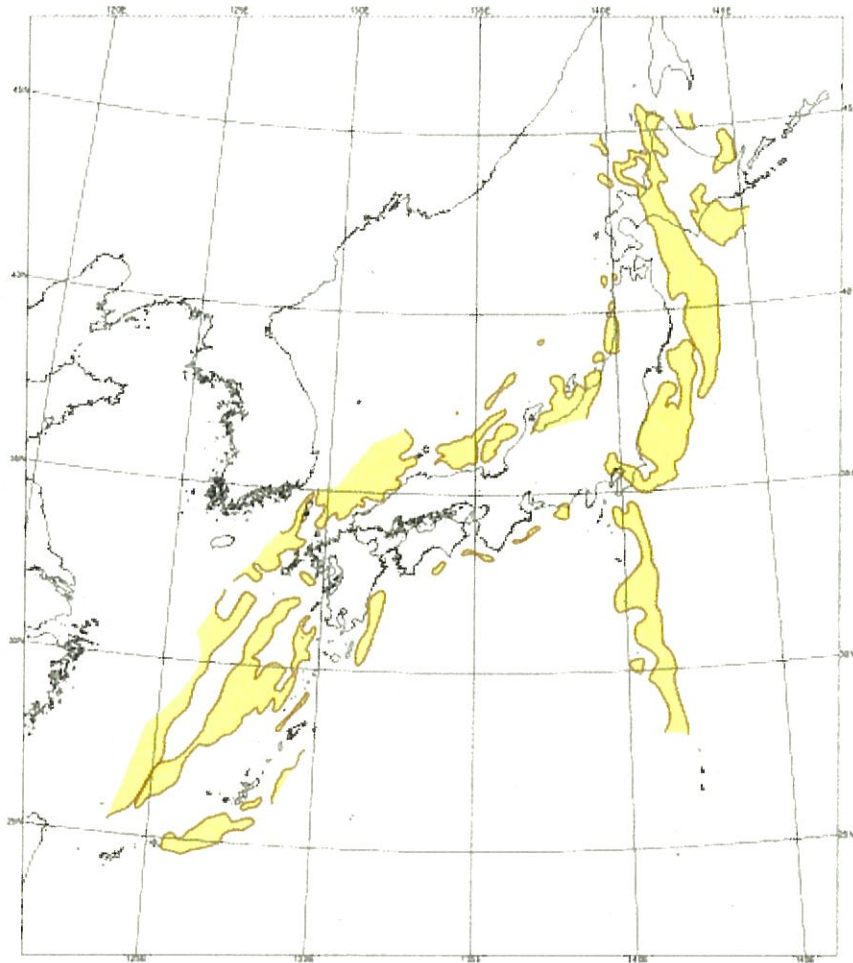
第 3.4-8 図 世界の海底鉱物資源の分布状況

^[1] 『深海底鉱物資源の世界分布』 (http://www.jogmec.go.jp/library/contents9_01.html, 2014/10/17 アクセス)

BSR面積=約122,000km²



第 3. 4-9 図 日本周辺海域におけるメタンハイドレート起源 BSR 分布状況



資料：『海洋エネルギー・鉱物資源開発計画』（経済産業省，2013年）

第 3.4-10 図 日本周辺海域における石油・天然ガス賦存ポテンシャルの高いエリア（堆積量 2,000m 以上の堆積盆）